

第14回（平成19年度第3回） かごしままちづくり会議会次第

○日時：平成19年10月2日（火）10：00～12：00

○場所：市民福祉プラザ5階中会議室

1 開 会

2 報 告

- （1）第13回（平成19年度第2回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について
- （2）第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について
（全市的な事項）
- （3）第14回（平成19年度第3回）地域まちづくり会議等について

3 協 議

- （1）テーマ：安心安全
- （2）3カ年のとりまとめについて

4 その他

5 閉 会

第14回(平成19年度第3回)かごしままちづくり会議資料

	ページ
1. 第13回(平成19年度第2回)かごしままちづくり会議における意見等の検討状況	1～6
2. 第13回(平成19年度第2回)地域まちづくり会議等における意見等の検討状況 (全市的な事項)	7～14
3. 第14回(平成19年度第3回)地域まちづくり会議等	15～22

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
1	合併以降、ゴミ処理については、鹿児島市の非常にレベルの高い収集システムによって、旧町も運営されていると思う。しかしながら、このことで、旧町時代の自助努力してゴミを減らそうという意識が下がってはいけないと思う。この意識が合併によって落ちてきているということはないのだろうか。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 今年1月、北部清掃工場稼働に伴い、分別が燃やせないから燃やせるに品目移行した際に、あくまで燃やせないゴミの一部を燃やせるゴミに移行し、プラスチック容器といった資源物は今までどおり資源物として回収すると広報したところだが、実際は燃やせるゴミにプラスチック容器類が混ざっていることが若干はあるのではなかろうかと思っている。このことは資源物は資源物として収集すると周知広報を図っていかなければならないと考えている。	1	4
2	地域会議でも、旧町時代は非常に分別していたが、最近、鹿児島市になって、焼却場ができたこともあり、何もかも一括して燃やすことがあるという意見が出ている。今後もこれを続けていくと、住民の分別に対する認識・意識が下がるのではないか。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 1に同じく回答	1	4
3	収集の方式が便利になって、分別する意識がなくなってしまうとゴミの問題は終わらない。そういった中で、環境未来館の啓発事業は大事である。便利で快適なごみ収集の環境下においても、リサイクルの思想を育めないだろうか。	2	環境局	(後段は5の前段を再掲) ----- ごみの減量化・資源化のためには、分別収集を徹底するなど、ごみ・資源物を分別する「リサイクル」の広報啓発は大切なことだと考える。環境未来館においては、リサイクルをはじめとする「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」を推進していくため、その広報啓発を積極的に行ってまいりたい。 環境未来館は、市の施策を宣伝する場としての機能はもちろんあるが、館の目的は、市民・事業者・行政が環境問題に関心を持ってもらい、意識して、実践に結びつけていくということまでをお願いしたいということ。そのためには、啓発、教育、学習といった機能もあるが、住民団体同士の情報交換や活動の場であり、そういった場を通して、意見を主張しあったり、考え方を共有したり、理解し合ったりできるようにしたい。	2	4

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
4	やはり一番大事なことは、ゴミを出さないということに方向を向けるということ。ゴミ処理をする時代ではなくなっている。無駄なものは買わない。マイバッグ、マイ箸もそうだが、そういった方向に意識を持っていくようなことをしていかなないと、ゴミ問題は解決しない。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- ごみの減量化・資源化のためには、分別収集を徹底するなど、ごみ・資源物を分別する「リサイクル」の広報啓発は大切なことだと考える。環境未来館においては、リサイクルをはじめとする「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」を推進していくため、その広報啓発を積極的に行ってまいりたい。	2	4
5	現在、鹿児島市が考えているゴミ収集の方法である「燃やして埋める」以外にも、「収集のあり方も一括でなく個別に。」「バイオを使う方法もあるのでは。」といろいろな新しい意見がある。環境未来館では市の方針を宣伝・啓発するだけでなく、あらゆる方法・意見の発表・検証の場であってほしい。また、市民全体でゴミ処理をどのようにしていったらいいかを同じ立場で考えられるようなしなかけをしていただけないかと思う。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 環境未来館は、市の施策を宣伝する場としての機能はもちろんあるが、館の目的は、市民・事業者・行政が環境問題に関心を持ってもらい、意識して、実践に結びつけていくということまでをお願いしたいということ。そのためには、啓発、教育、学習といった機能もあるが、住民団体同士の情報交換や活動の場であり、そういった場を通して、意見を主張しあったり、考え方を共有したり、理解し合ったりできるようにしたい。 また、運営についても、いろいろな公の施設や学校教育の現場、社会を構成する事業所との連携を深めるとともに、市民のみなさん・団体の方の意見を聞く場を設け、それを反映させていきたい。	2	4
6	県民交流センターに「いのちの学習館」があり、エコクラブとか、小中学生を対象にしたエコに関する講座が開かれている。そういったものとの連携、区分けはどのようにするのか。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 県民交流センターの施設とは、環境未来館を作るにあたって協力やアドバイスをいただきながら、また、それぞれが役割分担をし、連携して取り組むことを共通に認識し合っている。	2	4

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
7	今までは都市生活者、サラリーマンのゴミ処理だけの感覚なので、農村などの各地域でこうやってうまく処理している、各地域でここまで細かく分別しているというのをたくさん紹介してほしい。鹿児島市の市民にとって、うまく解決しているというのはずばらしいことであると思うし、生ゴミをきちんと堆肥にする仕組みなど農村地域にはあると思う。環境未来館でたくさん紹介し、ゴミ問題を共通認識として市民が感じあえるものにしてもらえればと思う。	2	環境局	(後段は13の前段を再掲) 生ゴミを堆肥化するという事は、減量化の面において大切なことであることから、本市においても「生ゴミ処理機器設置費補助金制度」により推進しているところである。環境未来館においての、広報啓発については、3Rに係るものとして、今後検討させていただきたい。 未来館についてだが、このシステムの一つに環境情報システムがある。そこは私どもが用意できる、ありとあらゆる環境情報をわかりやすく伝えたいと思っており、市民・市民団体・地域の皆さんが持っている情報を提供する場を用意することを考えている。	2	4
8	ぜひ、岩手県や東京都周辺などで実施している環境会計を、市でも導入してほしい。いかなる環境施策が有効か、効率的かを考えるうえで非常に役に立つツールである。行政といえども、清掃工場や汚水処理場において、環境への負荷を与えているところであり、市民に対する説明責任を果たすことの一つにもなる。また、環境保全条例にもとづく環境管理指針があり、これは事業者に対する評価だと思うが、市役所自体の事業に対する環境活動評価はしているのか。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 鹿児島市の事業に対する評価は、環境配慮率先行動計画の中で鹿児島市のいろんな事業活動について評価を実施している。今後も厳しく進めていきたい。各事業所においては、ISO14000シリーズで取り組んでいる企業もあると思うが、環境配慮率先行動計画はそれに準じて実施している。 なお、環境会計については、大変重要な項目であり、今後、環境を全ての事業に念頭に置きながら進めていくという大きな要素もあるので、今後検討させていただきたい。	2	4

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
9	環境未来館について、大変素敵で、緑いっぱい施設であると思うが、屋根の芝生は土のないところに植えるのか。電車軌道敷も芝を植えているが、一番下には土があってほしい。雨が降ったときに水を吸収しなければ、芝生が生きられないと思うし、セメントに塗られてしまうと、集中豪雨の際、道路が川のようになり、人が作った水害となってしまうのではないか。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 建物の屋根部分については、屋上緑化あるいは壁面緑化のようにヒートアイランド対策として技術が開発されており、それに植え込むことになる。屋根部分の最後にコンクリートが出てくるが、駐車場やオープンスペースは普通の芝生の貼り方になる。できるだけ緑を広げることで、省エネ対策、ヒートアイランド対策、緑のイメージで環境の象徴なところでイメージアップを図るということで、芝生と木で考えている。また、一定の量は保水できる場所である。	2	4
10	芝生は精神的に潤いを与えるため、中央公園の芝生は人気がある。だが、ニューヨークのセントラルパークと比べて非常に狭い。もう一つあのような公園があればと常々思うし、中央公園と城山が繋がれば、ニューヨークのセントラルパークに劣らない公園になると思う。	2	建設局	本市においては、市民に潤いと安らぎを提供することを目的に、市民の多様なニーズに対応した公園づくりを進めているところであり、整備にあたっては、地域の状況などを踏まえ、地域の方々のご理解とご協力をいただきながら進めているところである。 お質しの中央公園から城山までの地区は、数多くの歴史・文化施設のほか、商業施設等の建物が集中している中心市街地に位置し、一定のまとまった用地の確保が困難であり、さらには主要幹線道路が整備されていることから、当該地区の連続した公園整備は困難であると考えている。	3	4
11	天文館に仕事場を持っているが、落書きがものすごく多く、建物自体がゴミのようになり、まるでゴーストタウンのようになってきている。天文館には観光客が大変多く来ていることから、あれを消すことが第一の問題だと考えられる。	2	経済局	美しいまちづくりに関しては、鹿児島市観光未来戦略の重点戦略としても「美しく潤いのある快適な鹿児島づくりの推進」を掲げ、観光地としての魅力の向上に努めているところであり、関係課との連携をとってまいりたいと考えている。	1	4

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
13	合併したことによる旧鹿児島市の最大のメリットは広大な緑地の確保ではないか。もう少し市民が楽しく自由に、これらの緑に接することができるように積極的に取り組んでいただきたいと思う。このような恵まれたところがいっぱいあるので、そこにどう誘導していくか。自然遊歩道は一つの事例だが、誘導する施設、環境、意識を作り上げることにもっと取り組んでいただきたい。また、情報を発信する際には、同時にモラル教育もしてほしい。地域のいいところがあるという、一度に来て荒らされることがある。例えば、たらの芽を、地域の人たちは芽しか採らないが、市域の人は根っこから切る場合がある。そういったマナーの問題も、同時に行ってほしい。	2	環境局	質疑として次のとおり回答済 ----- 未来館についてだが、ここのシステムの一つに環境情報システムがある。そこは子どもが用意できる、ありとあらゆる環境情報をわかりやすく伝えたいと思っており、市民・市民団体・地域の皆さんが持っている情報を提供する場を用意することを考えている。 例えばここにこんな素晴らしいところがあるとか、見所があるとか、そういったところを、GISの地図情報システムで提供し、いい場所、環境資源、環境財産として広く知っていただき、活用にもつなげるというような仕掛けを準備している。ご指摘の視点で改めてよくしていきたい。	2	4
14	生ゴミを減量化・堆肥化する家庭には補助金を出す制度があるが、鹿児島市の取り組みとして、もっと大きな視点で取り組めないか。例えば、ドルフィンポートあたりをモデルケースに実施するといいいのでは。	2	環境局	生ごみを含む食品残渣については、食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）において、食品関連事業者に削減義務が明記されているところである。 削減方法は「①発生そのものを抑制する。②生ごみ処理機器等で自家処理する。③堆肥化・飼料化・バイオマスエネルギー化など資源化する。」等が考えられることから、行政として事業者が積極的に取り組むことができるよう、リサイクル業者などの情報発信を行ってまいりたい。	3	4
15	環境問題というと、「シンクグローバリー、アクトローカリー。」と言われるように、「地球規模で考えて地域で行動する。」ということに尽きると思うが、個人レベルと地球レベルで、あまりにも格差が大きすぎて、何をしたいかわからないというのが正直な感想である。個人と地球との間のあり方などを、わかりやすく市民に紹介していただくと、もっと市民にとって参加できることがあるのではないか。	2	環境局	地球環境問題の主な原因が市民生活や通常の事業活動であることから、意識啓発を推進していくことがこれらの問題を解決するためには不可欠であることを鑑み、これまで温暖化対策のパンフレットやチラシの作成・配布、その他の地球環境問題にかかるパンフレットの購入・配布を行ってきた。今後は、さらに市民・事業者によりわかりやすい情報提供の方法について検討し、積極的に取り組んでいく。	1	4

第13回（平成19年度第2回）
かごしままちづくり会議における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他
 分類 : 1 新市まちづくり計画に関する事項、2 合併協定項目に関する事項、3 合併施行後新たに生じた課題、4 その他

番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類	分類
16	これからまちをつくっていく際、緑をつなげたまちづくりをしてほしいと思う。公園のように緑を単発的に作っても、生き物たち・昆虫はそこの中だけしか生きられないものである。また、ぜひ、市内にも緑をつなげた遊歩道的なものを作ってほしい。観光的にも団塊の世代が鹿児島市に来てゆっくり市内の街を歩くようなところがなかなかないというふうに聞いているし、未来館に行くにも緑をつなげた歩いていけるスペースがあればいいと思う。	2	経済局 建設局	現在計画中の歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）の整備や、その対岸の甲突川右岸緑地等の整備により、観光客や市民が楽しみながら散策・周遊できる空間整備を行ってまいりたいと考えている。 街路の緑化については、幹線道路等を中心に、地域の特性を生かした個性ある植栽を行うとともに、樹木の自然な生長を生かしながら、緑豊かで花にあふれるネットワークの形成とその充実を図っているところである。	1	4
17	路上禁煙地区をつくっているが、路上ガム禁止エリアをつくってほしい。一番景観の観点で町を汚しているのが、ガムの黒い汚れである。シンガポールは実際、ガムの持込を禁止されている。鹿児島市が禁止エリアを作ればメディアでも取り上げられると思うし、他に続く自治体も現れると思う。	2	環境局	市民の行動や権利を制限する条例等の制定には特に慎重を期す必要がある。路上でガムをかむ行為は何ら違法性等の問題がないマナーの問題であり、投棄行為については平成16年10月1日施行した「鹿児島市みんなでまちを美しくする条例」により、市内全域において空き缶やタバコの吸い殻等（ガム等も含む）の投棄を禁止しているので、現在のところ新たに「路上ガム禁止エリア」を設ける考えはない。	3	4
18	温室効果ガスの排出量について、自動車が一番大きな原因だと思う。旧加世田市がサイクルシティ宣言をしていたが、自転車を生かしたまちづくりは自動車を使わない環境に優しいまちづくりといえる。自動車交通量の多い鹿児島市こそが、こういった自転車を使おうとか歩こうという運動をする価値があると思う。ぜひキャンペーンなど実施し推進していただきたい。	2	環境局	地球温暖化対策については、本年3月に策定した「鹿児島市地球温暖化対策地域推進計画」に掲げる温室効果ガス削減目標を達成するため、同年7月に市民・事業者等で構成する「かごしま市地球温暖化対策地域協議会」を設立し、具体的な温暖化対策について検討し、市民・事業者・市が一体となって取り組んでいくことにしている。その中で、自動車対策についても推進していく。	2	4

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
喜入	1	合併時の経過措置としての集落等への補助も無くなり、農村部においては、高齢者も多く、人口も減少し、自治組織の維持も厳しい状況となってきたので、地域コミュニティを活性化するための新たな制度の創設を含め、支援策を拡充してほしい。	2	市民局	町内会等に対する補助制度につきましては、合併時に旧鹿児島市の制度に統合致しましたが、旧町地域においては、実情などを考慮し、経過措置を設けるなどの対応を図ってきたところである。 市では、町内会等の活動を各面から支援しており、平成18年から「みんなで参加わがまちづくり支援事業」を新たに開始するとともに、平成19年度から「広報活動推進事業補助」の対象を拡大するなど、補助制度の拡充に努めているところである。今後とも、町内会活動を積極的に支援して参りたいと考えている。 ※新市まちづくり計画 2 個性創造都市／(8)コミュニティ／35ページ	1
松元	2	旧町時代「心の教室相談員」活用調査研究委託事業として、週に4日程度松元中学校に教員OBを配置して、生徒、教職員等の相談やサポートを行っていた。この事業を、合併後の本市でも行っていただきたい。また、カウンセリングルームを設置する場合は、小学校から中学校まで一貫して相談などが受けられるような体制を整えていただきたい。	2	教育委員会	心の教室相談員活用調査研究委託事業については、旧松元町において平成15年度に終了した事業である。本市においては、市スクールカウンセラーを全ての中学校に配置するとともに、4学級以上の中学校には、臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する者を文部科学省スクールカウンセラーとして派遣し、生徒や保護者、教職員の相談に応じているところである。 また、小学校においては、市スクールカウンセラーを要請に応じて随時、派遣するとともに、文部科学省スクールカウンセラーのカウンセリングも受けることができる体制を整えているところである。	1
郡山	3	農業については、地域ぐるみで取り組む必要がある。鹿児島市外では、鹿屋市串良町の柳谷集落、薩摩川内市の峰山地区コミュニティ協議会のような大きな取組みがあるようだが、これらに共通しているのは、集落・自治会の活動として取り組まれていることであり、このような取組みを通じて農業をする人を呼び込み、農村へ足を運ぶ人を増やすことが必要である。行政においてもこの様な取組み事例や情報を収集し積極的にPRに努めるなど、このような取組みを支援するような施策の充実に努めていただきたい。	2	経済局	研修会・先進地視察などによる地域リーダーの育成や、話し合い活動を進めている。引き続き、地域の特性を活かしながら、連帯感に支えられた豊かな都市型農業・農村地域の振興を目標に、農村地域の活性化に努めてまいりたい。 ※新市まちづくり計画 5産業活力都市／(4)農林水産業／54～55ページ	1

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類：1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類：1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	4	市では行政と市民との協働とか市民とのパートナーシップによるまちづくりを提唱されているが、我々が合併前と合併後で大きく変化したと感ずるのは、行政と自治会・町内会との関係である。 小学校区単位による町内会・自治会の連合組織の結成を市全域で促進し、その連合組織の代表（小学校の数程度）と行政との間で定期的な情報交換や意見交換を行うなど、相互の信頼関係を構築して地域と行政が対等な立場で協力し、共にまちづくりを進めていくような仕組みをつくることのできないか。	2	市民局	町内会は、地域住民の自主的な総意に基づき、地域を快適に住みよくすることを目的に組織された住民自治組織である。 市では、それぞれ地域性や規模等の異なる単位町内会の活性化を図ることが大切であると考えており、これまで、補助制度の実施など、各面からその活動を支援してきたところである。 活動にあたり、近隣の町内会等が連携し合同で事業を実施されることは、住民同士の親睦交流が図られ連帯感に満ち溢れた地域づくりにつながるものと考えている。連合組織の結成については、地域の実情に応じて、住民の皆様の総意で行われるものであると考えており、市が画一的に促進することは考えていないところである。 現時点においては、地域の代表者と行政の間で定期的な意見交換の場等は設けていないが、市長とふれあいトーク、市政出前トーク、私の提言や市政モニター制度等を活用し、共にまちづくりを進めてまいりたいと考えている。	3
郡山	5	遊休農地の解消策の一環として、市民が気軽に農業ができるように農地取得や貸し借りなどについての規制等（下限面積）の緩和や規制外にある方々への施策の充実の取り組み及び農地の貸し借り情報の提供について、市民の広場や市のホームページに掲載するなどの取り組みはできないか。また、定年帰農の施策についてどのようなものがあるのか、これらの情報やその手続きなどの情報提供の方法についてもっと充実していただきたい。	2	農業委員会 経済局	農地取得や貸し借りなどについての規制等で、下限面積の取扱いについては、現在、鹿児島県において検討中とのことなので、状況等を見守っていきたいと考えている。 また、農地の貸し借り状況等の提供については、市民の広場や市のホームページに掲載することも含めて、広報の充実に努めてまいりたい。 新規就農支援については、都市農業センターでの3ヶ月研修や就農開始にあたり必要なビニールハウスの設置経費への助成などを行っている。 また、18年度から定年前の方々を対象とし、働きながら簡単な農作業体験ができる就農準備講座も行っているところである。 今後も情報提供につきましては、市の広報紙・ホームページ等を通じて行ってまいりたい。	1・2
※新市まちづくり計画 5産業活力都市／(4)農林水産業／54～55ページ						

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類：1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類：1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	6	行政でも従来の農業施策だけでなく、ロハスや有機農法、インターネット販売などの事例や情報について積極的に市民に提供し、新たな需要の掘り起こしに努めるなど、都市と農村の交流促進による地域活性化につなげていただきたい。	2	経済局	新たな農業の事例や情報については、生産現場が必要なものを適確に伝えていきたい。	5
郡山	7	現在、市域で7つ開催されている農業まつりについて、例えば、市域を大きく2～3つ程度（北、中央、南など）にブロック分けし、そのブロック毎での開催や、春・秋開催のまつりの会場を各地域持ち回りとするなど、ある程度、市全体でまつりを統合することはできないか。統合された大きなまつりの中で、市域全体の産物や特産品などを一堂に展示紹介、販売等を行えば、市全体の農業振興や本市の一体感にもつながるのではないか。	2	経済局	農林水産春（秋）まつりについては、品評会などの生産者の技術研修と併せて市内の農林水産業と市民とのふれあいの場を設けることを目的としておりますことから、市内全域から市民に来ていただきやすい場所として都市農業センターで開催いたしております。一方、地域農業まつりは、地域で実行委員会をつくり行っているまつりで、地域住民の親睦と地域産業の振興、併せてそれぞれの地域を都市住民に知ってもらう交流が目的のため各地域で開催いたしております。このようなことから、農業まつりについては、当面はそのままどうり開催してまいりたい。	3

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	8	県では本年度から県内の各エリアに地域振興局が組織化され、各エリア毎の長の裁量で、地域の特性を活かし、地域に密着した行政運営ができる仕組みが始まったようであるが、現在の支所のあり方（支所長の権限のあり方とも関係するが）について再検討する必要があるのではないか。 今後を展望した場合、本庁のほかに、現在の9つの支所の括りを大きく再編し（例えば、北部、南部、中央、西部、東部など）、その支所（支所長）の権限で、地域の特性を活かし地域に密着した行政運営ができる仕組みをつくるなど、簡素で効率的な市民にわかりやすい行政組織を検討していただきたい。	2	総務局	現在の組織体制においては、企画管理部門や全市的な取扱いが必要な部門は本庁に集約して対応し、支所では、支所長の権限の下で市民相談、戸籍、税務等の業務を所管している。また、建設・農林・福祉など専門性が高い分野については、組織としては専門の管理者の下に置きながら、地域住民への利便性を確保するために、支所庁舎内に出先機関を設置している。このように、住民生活に直結する行政サービスについては、可能な限り身近な地域で完結することが望ましいとの観点に立って、これまでも支所機能の整備を図ってきており、今後においても、このような考え方を基本に市民サービスの向上と業務の効率性の両面から検討してまいりたい。 ----- ※合併協定項目 8. 事務組織及び機構の取扱い (1)5町の役場は、支所とする。 ----- ※新市まちづくり計画 6. 計画の推進にあたって／(2)行財政運営／57ページ	3
郡山	9	市民のひろばなどの市の広報で旧5町区域のことや施設などもいろいろと配慮してとりあげていただき非常にありがたい。旧5町の施設等が市の広報で情報発信されることで、多くの市民が旧5町に足を運び施設の利用増につながっている側面もあると思う。このようなことが相互の住民にとって親近感となり、一体化の大きな成果のひとつになっていると思うので是非、今後とも、これらの取組みをより充実していただきたい。	2	総務局	合併後、さまざまな広報媒体で旧5町域を取り上げてきた。市の速やかな一体化に向け、より多くの情報発信に取り組んでいきたい。	1
郡山	10	合併後、他都市の例で合併の効果、成果等についてアンケートを実施してその結果を公表しているところがあるようだが、鹿児島市においても、5年後、10年後の節目に、合併の効果（行政サービス、住民意識の面など）について、あらためて検証して、市民に対してその情報をフィードバックしていただくようなことを考えていただきたい。	2	企画部	合併の効果の検証については、今年度実施する市民意識調査において、設問として設定する予定である。節目での調査については、その時点での状況を踏まえ、対応することになると考えている。	2

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	11	校区公民館については、主に学校の行事にしか使われず、あまり活用がなされていないようである。校区公民館は、生涯学習施設・社会教育施設として位置付けられているが、校区公民館運営審議会のメンバーは、校区内の各種団体の長で、各団体はそれぞれの活動拠点をもって独自に活動しており、現在の市の校区公民館制度は疑問や問題が多いと感じている。地域では、むしろ地域コミュニティ活動の拠点として、自由に使える公共施設が求められており、現在の校区公民館制度の意義と役割を検証し、見直しが必要ではないか。また、生涯学習、社会教育を目的としたこの施設をさらに有効に活用するためのひとつの方策として、類似の目的をもつ地域公民館と校区公民館の連携策を考えるべきではないか。	2	教育委員会	校区公民館は、地域住民の生涯学習の場となるとともに、町内会やあいご会、PTA等の関係機関・団体への支援と連絡調整を図って、青少年の健全育成や青少年の健全育成に伴う地域課題を解決するための校区コミュニティ活動を進めることを目指しております。 各校区公民館運営審議会は、校区内の自治組織や社会教育団体等が連携して事業を行うために重要な役割を担い、これまでに各種団体が互いに連携を図りながら各種事業を実施することで、様々な成果を挙げたところです。 郡山校区公民館では、前年度2,421人の皆様に利用していただいておりますが、本年度は自主学習グループ等の学習の場として利用していただくとともに、地域ぐるみで青少年健全育成を行っていただくための活動拠点としてもさらに有効に利用していただきたいと考えております。 なお、地域公民館との連携のあり方については、現在地域の実情なども踏まえ、より効果的な連携について検討しているところです。	2
郡山	12	ごみの減量化と資源化について、4月から北部清掃工場で新しい焼却炉が稼働しているが、この施設は、ダイオキシンがでないのではなく、規定値内で燃やす施設である。また、環境面からみて逆行しているようなごみの分別を行っているのが現状である。県内では、20種類の分別を行っているところもあり、本市でもこのような取り組みができないか。	2	環境局	新北部清掃工場では、コンピューター制御による完全燃焼、減温塔による燃焼排ガスの低音化、活性炭による吸着除去を行うなど、万全を期したダイオキシン類対策を行っている。 現在、本市においては14分別としているが、分別数を増やしても、プラスチック製品については、リサイクルルートが確立されていないことからリサイクルすることは困難であり、この状況は県内他都市でも同様である。	3
郡山	13	コミュニティバス(元気バス)について、以前アンケート調査があったが、その結果について市民に公表していただきたい。	2	企画部	19年2月に行ったコミュニティバスの利用実態調査の結果については、今後、鹿児島市のホームページに掲載するほか、市政情報コーナーに調査報告書を展示したいと考えている。	2
郡山	14	公共施設の利用については、行政の縦割り組織で考えるのではなく、公共施設の申し込みや許可を各支所で行えるようにするなど、市民のニーズや各地域の実状に即した管理・運営のあり方を検討してほしい。	2	総務局	公民館や体育施設等をはじめとする公共施設の利用案内及び申し込み受付については、全市的に本市ホームページ(鹿児島市生涯学習情報システム「キュートピア・ネット」)や電話等での対応としている。	3

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1 各地域に係る事項、2 全市的な事項、3 その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類 : 1 既に施策等に盛り込み済みのもの、2 今後施策への反映を検討するもの、3 要望等にそい難いもの、
 4 市の所管に属さないもの、5 その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	15	かごしままちづくり会議での議論がいまひとつみえないが、特に農業問題については一地域の問題ではないので、市全体としてかごしままちづくり会議で全体的により深く議論してほしい。	2	企画部	農林水産業については、平成18年度第2回かごしままちづくり会議において、主テーマとして設定して協議が行われたところであり、耕作放棄地や地産地消などについて、意見が出されているところである。	5
郡山	16	合併で広がった地域の資源について視点を変えてみると、観光として充分活かすことができるものもある。また、市民にとってのミニ観光（或いは交流）として活かせるものもあると思うので、これらの掘り起こしを積極的に進めていただきたい。一方、地域でも主体的に動き、情報を発信しながら行政へも訴えていくような努力も必要である。	2	経済局	合併で広がった豊かな自然やのどかな農村景観などを資源として、都市部住民と農村地域住民が交流を図ることを目的として、17年度に「みどり豊かな農山村ふれあい推進基本計画」を策定し、本市ならではのグリーン・ツーリズムを推進している。 また、18年度には「かごしま市のグリーン・ツーリズムマップ」の発行や「かごしま市のグリーン・ツーリズムホームページ」を開設して、広く市民に情報発信しているところであり、今後とも各地域の資源の掘り起こしに努めてまいりたい。 また、18年度のかごしま観光プログラム作成事業において、地域資源を発掘するとともに、既存の観光資源とあわせて、まち歩きを楽しめる新たな観光プログラム（モデルコース）を作成したところである。今年度は、合併で広がった地域の歴史、文化、自然などの資源についても、さらなる情報発信を行ってまいりたい。	1
郡山	17	従来の旧市・旧町の行政区域単位で考えるのではなく、現在の市域を例えば中央・東・西・南・北ブロックに分け、この大きなブロック毎に行政組織、公共施設の配置や大会（予選等も含む）・イベントの運営等を考えていけば、旧行政区域の垣根も無くなり、本市の一体化がさらに進むのではないか。	2	総務局	行政組織としての各支所の設置については、合併等の歴史的な経過に加え、本庁からの距離や地形といった地理的条件も踏まえながら対応してきている。また、住民生活に直結する行政サービスについては、可能な限り身近な地域で完結することが望ましいとの観点に立って、これまでも支所機能の整備を図ってきており、今後においても、このような考え方を基本に市民サービスの向上と業務の効率性の両面から検討してまいりたい。 ----- ※合併協定項目 8. 事務組織及び機構の取扱い (1) 5町の役場は、支所とする。 ----- ※新市まちづくり計画 6. 計画の推進にあたって／(2) 行財政運営／57ページ	3

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類：1各地域に係る事項、2全市的な事項、3その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類：1既に施策等に盛り込み済みのもの、2今後施策への反映を検討するもの、3要望等にそい難いもの、
 4市の所管に属さないもの、5その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	18	この会議でいうところの「一体化」とは、旧5町が旧鹿児島市の仕組み・やり方に、統一する、合わせる、なれるという側面があるのかなと思える。そうした場合、一体化が進めば進むほど、住民の意識・連帯感などが低下していく傾向になる気がしてならない。郡山地域のような農山村地域は、地域に対する愛着・誇り・こだわり、地域の連帯感も強い。また、市民の行政に対する信頼も厚い。これからの行政運営は、旧5町が旧鹿児島市に合わせるということだけでなく、このような旧5町のいい面もとり入れるという姿勢で、新たな仕組み・やり方を再構築するなど、将来に向けて本市を創造していく視点で本市の一体化を進めていくことが必要ではないか。	2	企画部	本市については、合併以降、新たに加わった多彩な地域資源を生かし、ひとまわり大きく、新しい魅力を持った“鹿児島市”のまちづくりに向け、力強く進んできていると考えている。 また、地域間の連携や市民の交流による相互理解を土台として、新市としての一体感をより強固なものに築き上げていくことが重要であると考え、緑豊かな田園地帯・森林資源等を活用しての「グリーン・ツーリズム推進事業」、旧5町地域のイベントや自然、文化などの魅力を紹介し、市民レベルでの活発な交流を促進する「かごしま再発見地域めぐり事業」・「市域内交流事業」などを実施している。 今後においても、新市の速やかな一体化、均衡ある発展を最重点課題として、すべての市民の方々に、合併してよかったと思っただけのまちづくりを推進していかなければならないと考えている。	1

第13回（平成19年度第2回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況一覧表

意見等の分類 : 1各地域に係る事項、2全市的な事項、3その他（質問、所感等を含む）
 検討状況の分類 : 1既に施策等に盛り込み済みのもの、2今後施策への反映を検討するもの、3要望等にそい難いもの、
 4市の所管に属さないもの、5その他

会議名	番号	意見等の概要	意見等の分類	関係部局	意見等に対する検討状況	検討状況の分類
郡山	19	本市では、夏に4地域の花火大会、錦江湾大花火大会、火の島まつりをそれぞれ開催しているが、それぞれ開催する必要性はあるのか。例えば、4地域の花火大会を冬に大きなイベントとして持ち回りで開催することはできないか。	2	経済局 市民局	<p>錦江湾サマーナイト大花火大会と火の島祭りについては、鹿児島島の夏の観光イベントとして、市民だけでなく観光客や旅行者、ホテル旅館にも定着し、多くの観光客が観覧しているところであり、当面は現行のままをしたい。なお、冬場の花火については、研究してまいりたい。</p> <p>夏まつり等については、商工会が中心となって開催しており、地域住民が楽しみにしているイベントであることから、当面は現行どおりとし、これらの事情や住民皆様方の意向等も踏まえ、今後、調整を行ってまいりたい。</p> <p>※合併協定項目 (45)商工・観光関係事業／8観光イベント等 現行どおりとする。ただし、実施主体や実施方法等については今後調整を行う。</p> <p>・具体的な調整内容 夏祭りなどの各町商工会イベントについては、合併に伴う各商工会の動向を確認しながら、平成16年度は現行どおりとし、17年度以降については、中身の必要性、妥当性、バランスをみながら、イベント等助成補助金を現行補助金額を上限として、今後調整検討することとする。</p>	2・5

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
開催日時	平成19年8月29日(水) 13:30～15:50	平成19年8月27日(月) 9:30～11:45	平成19年8月28日(火) 10:00～11:45	平成19年8月30日(木) 14:00～15:20	平成19年8月29日(水) 13:30～15:20
開催場所	吉田福祉センター2階会議室	桜島支所2階大会議室	マリンピア喜入八幡温泉保養館2階 第1会議室	松元支所3階大会議室	郡山支所3階中会議室
出席者数	委員15人	委員14人	委員13人	委員14人	委員12人
会議内容	1 開 会 2 議 題 (1) 前回会議における意見等の検討状況 (2) 意見・提言等の協議 (5支所共通)				
	<各会議の協議テーマ>				
	商工・観光、農林業など	防災、消防、福祉、健康、スポーツレクリエーション、学校教育、生涯学習、コミュニティ、住宅、生活道路、水道 など	自治組織と住民自立	計画の推進にあたって ～市政情報・市民参画・地方分権など～	・自主研究グループの意見等の要約の確認と協議 ・とりまとめの基本的な考え方について協議確認
(3) その他 3 閉 会 (5支所共通)					
主 意 見 等 1	吉田北地域への市民農園の設置について、前向きな回答をいただいたが、全部を行政に任せるのではなく、ある程度自分達でも話を進めたい。	桜島地域では、消火栓はおそらく標準以上に整備されていると思うが、幹線道路以外は狭い道路も多いので、消火機材を装備した小型(軽自動車)の消防車を配備してほしい。	住民自立と自治組織のまとめのなかで、行政に依頼する部分については、校区公民館の運営管理等の問題点について、見直しの再検討の必要性を、もう少し具体的にまた、強い表現で記載してほしい。	声の広報(テープ版)や点字広報紙があることについては、配布対象者にどのようにお知らせしているのか。 また、松元地域での配布実績はどのくらいあるのか。	市民団体の活動やイベントを生かした行政と市民との協働によるまちづくりが図れないか。 ・行政の事業と民間の活動やイベントとの連携による事業展開 ・民間の活動やイベントを市民のひろばや市の広報番組等で広く市民に紹介するなど、行政による市民活動の側面的な支援 ・市民団体間の意見交換会の開催(行政の参画等や支援)による市民団体間或いは市民と行政との連携や共同事業の創出

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
2	<p>市営バスの乗り入れについては、吉田地域は採算性から難しいという意味の回答であるが、我々のような小規模の地域が何か意見を出しても、採算を重視するのであれば何も実現しないのではないか。</p>	<p>合併前は、防災行政無線による火災発生のサイレンとともに発生場所については地区名と家主名まで放送されていたが、先日（8月24日赤生原地区）の建物火災では、サイレンもなく発生場所も大まかであったため、住民の中には親戚の家を心配したり、サイレンが鳴れば初期消火も手伝えたのではないかと声も上がっている。また、消防団へも火災発生時の住民への情報提供が不十分であるとの苦情が数多く寄せられている。個人情報の関係もあるが、火災による財産の損失は住民にとって極めて重要な問題であり、ニュース等では個人名も含め詳しく報道されていることから考えると、火災発生時の放送についても可能ではないかと思われるので、安心・安全な生活や住民と一体となった消防体制づくりという面からも、今後は、サイレンとともに個人名等も含めた防災行政無線による情報提供をしてほしい。</p> <p>また、消防分遣隊や消防団の出動体制については、合併後約3年が経過し万全の体制がとられていると思うが、合併以降、指揮命令系統や消防団の組織や構成員、出動体制が大きく変わり、消防分遣隊の人員配置についても、夜間は救急車搭乗人員を含めて3人となり、東桜島からの応援を前提とした体制のようであるので、消防分遣隊や消防団の出動体制の強化を含め、現在の体制が万全であるか再度検討してほしい。</p>	<p>地域が主体となる部分について、校区や地域コミュニティでの活動においては、学校及び先生方との連携も大きな要素なので、その点についても加筆してほしい。</p>	<p>「市長とふれあいトーク」や「市政出前トーク」の開催日時や利用対象者はどのようになっているのか。</p>	<p>まちづくり会議で多くの意見が出されているが、なかなか成果が見えてこない。これらの意見等について、現段階での判断で整理分類するだけでなく、意見の趣旨や背景、市民の想いをしっかり受け止め、今後の施策に充分生かしていただきたい。</p>
3	<p>吉田北地域は、自然が美しいところで都市部に住んでいる人に野菜を作ったり、子どもと川遊びをしたりして過ごしていただけたらよいと思うので、市民農園を設置していただきたい。</p>	<p>災害時要援護者台帳の整備が進められている中で、地域住民で同意を得られなかった方等の個人情報については行政の方で責任をもって確認作業を行い、それらの情報をせめて地域公民館長（町内会長）だけには教えてほしい（桜島地域においては、災害時における地域公民館長の役割が非常に大きいため）。</p>	<p>校区公民館運営審議会や女性連などの女性団体について身近な喜入地域公民館で、指導助言が受けられるような仕組みができないものか。</p>	<p>電子市役所の基盤となる行政情報通信ネットワークの構築については、全国の市町村等でばらつきがあると効果的でないのではないのか。</p>	<p>公共施設の利活用等について、西有里研修館、郡山東部研修館、八重棚田館（管理人の常駐が必要である）の施設で、申請受付や許可、使用料の支払いなどができるよう、利便性の向上を図っていただきたい。また、八重棚田館については、グリーンツーリズムを進める拠点施設として、棚田での農業体験等の後、宿泊できるような運用を検討していただきたい。</p>

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
4	市民農園ができたとしても、道路や公共交通機関が整備されなければ行けない人もいます。車を持つ人は行けるかも知れないが、今度は駐車場や車による公害などの問題も出てくると思う。どこまで自然を残して、どこまで開発したら人を呼べるかというバランスも考えなければならない。	以前、郷土教育の充実について要望したが、学校の先生は数年のサイクルで転勤され、桜島のことに詳しくなるところには転勤になることが多いので、新任の先生が桜島に来られたときに、桜島について色々な勉強ができる機会を教育委員会で設けて、それを基に学校での総合学習等に生かしていくようなシステムを検討してほしい。	喜入地域の海岸清掃ボランティアについて実施団体を組織し、行うことも必要ではないか。	電子市役所の構築については、本市ではどの程度達成されているのか。数値的に達成度を示せるものがあつたら教えていただきたい。	夏祭りについて、旧鹿児島市内では各団体が自主運営をしており、今後市からの助成は難しい面が予想されることから、商工会自身が他の地域の情報等も収集し、実施主体・規模・内容など今後の方向性について整理した上で、地域の各団体との連携等も含め、地域内の市民団体間の意見交換会に行政の参画や支援・アドバイス等をいただきながら、検討を進めていきたい。
5	吉田の特産品であるナタ豆が来年のNHK大河ドラマ「篤姫」の原作に登場するので、「薩摩ナタ豆の里吉田」としてPRしていきたい。ほかにも吉田地域には史跡や文化財も多いので、これらを活かして地元が積極的に具体的に動いていかなければ人を呼ぶことはできない。	旧鹿児島市域の学校が桜島に来て遠泳やカヌー教室を実施している。桜島でも一部の学年でカヌー教室を授業の中に取り入れているが、海に囲まれている桜島では、学校教育の中にもっとマリンスポーツなどを取り入れてほしい。以前、桜峰小が購入したカヌーを十分活用して、学校の授業の中でカヌーや遠泳などをもっと行ってほしい。	JR喜入駅の案内板を見て、市指定文化財以外の文化財や史跡を訪れる方も予想されるが、草払い等の清掃を市で対応できないか。	市道の地下埋設物等については、その種類によって所管課が異なるため、問い合わせ先などが分かりにくい。データベース化を行って、地下埋設物等の問い合わせ窓口を一本化するなど、利便性を高めることはできないのか。	先般、コミュニティバスの運行再編があつたが、利用実態調査の結果はどの程度生かされているのか。路線バス廃止については、全県下の問題であるが、現状の課題とその解決方法を具体的に考え、住民ニーズを踏まえたよりきめ細やかな対応が必要ではないか。
6	県道40号線の整備が進んでいるので、谷山方面から空港などに行く人が多くなると思う。吉田地域がただの通り抜けになるのではなく、立ち寄ってもらうために観光案内板や標識を設置してほしい。	桜島では、合併前、桜島地域が一体となって社会教育活動等を行ってきたが、現在、校区公民館運営審議会の組織は、桜洲校区と桜峰校区の二つに分かれており、組織が分かれていると、日程調整等が大変で一体的な活動がしづらいので、桜島校区公民館ということでぜひ一本化してほしい。合併当初、組織を立ち上げる際に要望したところ、校区公民館は小学校単位で組織しており、必要に応じて連携をとってほしいとの回答があつたが、実際に活動をしてみて、やはり校区公民館の一本化の必要性を強く感じるので、改めて検討してほしい。	とりまとめについて、委員に対して説明し、とりまとめにあつての基本的な考え方及びスケジュールについて承認を得た。 ①今回のまとめは、17年1月から19年10月までの3か年分の会議の集大成とする。 ②報告書の構成は、協議経過等、テーマ等による意見・提言等総括の3つの柱を基本とする。 ③意見集約にあつては、これまでの協議経過をベースに類似又は重複する意見等を要約し、整理を行うとともに、17年度末・18年度末の協議経過報告書等をふまえ、とりまとめを行う。 ④ 第4回地域まちづくり会議で、まとめの検討・協議を行い、地域会議を終了することとし、11月下旬頃に市長へ提出する。	合併した5地域は本庁までの距離も遠く、いろいろな手続きを行うのに不便を強いられている。電子市役所の構築をさらに推し進めるなどして、地域住民の利便性を向上させてほしい。	合併協議で確認されている屋内体育館施設の整備はもちろんのこと、合併協議で確認されていない国道3号のバイパス（川田～皆与志・花野へ通じる道路）の整備についても取り組んでいただきたい。

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
7	グリーン・ツーリズム推進事業について、前から会議を持たれているが、現状はどういう状況か。	桜島自然恐竜公園の下にある海軍無線基地壕跡は重要な遺産であり、観光資源にもなると思うので、市の文化財に指定してほしい。		松元支所の公用車車庫と松元地区保健センターとの間が狭く、行き交う車が事故を起こす危険性がある。何らかの対処ができないものか。	天保山の河口部分には桜が植林され花見の場所となっているが、鹿児島市の水源である甲突川源流から天保山まで、桜並木にしてはどうか。例えば、市民や企業等がお金を出して記念日に植樹をするなどの取り組みはできないか。また、管理については、花壇の管理を市が地域のあいご会や町内会が行っている形と同様にできないものか。
8	稲荷川流域の水源かん養機能の高度発揮のため、除間伐と下刈りに対して、助成があるとのことであるが、本名校区に本名区委任者会という団体がある。助成の対象になるか。なるとすればどのような手続きをどこにすればよいか。	黒神埋没鳥居の周辺はきれいに掃除されており、とても良いと思うが、鳥居の周りにブロックが打っており、チェーンが切れているなど、文化財であるにもかかわらず、ぞんざいに扱われており、また、写真を撮る際にも、ブロックが写るため、鳥居が綺麗に撮れないこともある。文化財や観光資源としての価値を上げるため、近くにある埋没門柱も含め、駐車場やトイレの新設など周辺一体の整備を計画してほしい。		とりまとめについて、委員に対して説明し、とりまとめにあたっての基本的な考え方及びスケジュールについて承認を得た。 ①今回のまとめは、17年1月から19年10月までの3か年分の会議の集大成とする。 ②報告書の構成は、協議経過等、テーマによる意見・提言等、総括の3つの柱を基本とする。 ③意見集約にあたっては、これまでの協議経過をベースに類似又は重複する意見等を要約し、整理を行うとともに、17年度末・18年度末の協議経過報告書等をふまえ、とりまとめを行う。 ④第4回地域まちづくり会議で、まとめの検討・協議を行い、地域会議を終了することとし、11月下旬頃に市長へ提出する。	自治会連合会の危険箇所点検活動により作成された環境点検マップを市立の学校だけでなく、私立の幼稚園や関係機関にも配布するなど、もっと活用を図るべきではないか。また、青少年の日などにPTAや子ども会活動として、危険箇所に実際に足を運び、現場で認識を深める活動を行事化するなどできないか。
9	県が道路から見える荒れた竹林改良に対し補助をしているが、台風などの被害後の竹林関係の景観対策は対象となるのか。	市営住宅の募集については、合併前は随時行っていたが、現在は、年4回行われる定期募集に限られ、随時募集は行っていないとのことであるが、募集期間中に申し込みが無かった場合は、3か月位空き家のままにしておくこととなり、民間の経営者の感覚ではとても有り得ない。その間の家賃収入が入らないことは市の財政にとってもマイナスではないか。全市的に市営住宅の随時募集を行うには管理戸数も多く難しい面もあると思うが、桜島地域は、空き室も少なく、過疎地域であるという特殊性もある。過疎化を少しでも抑制することに加え、市営住宅の効率的な活用の面からもぜひ随時募集を行ってほしい。		将来の松元地域のまちづくりを進めるにあたっては、新市まちづくり計画を基本として、これまでに出示された意見・提言等を着実に施策に反映させていくことが重要であると思う。	高齢者等見守り活動については、郡山地域内で取り組んでいる自治会の事例等を自治会間で情報交換し、各自治会で可能なものは取り入れるなどしながら、地域全体で取り組んでいく必要がある。また、行政の方で標準的なモデルや取り組み事例等の情報を提供していただき、その上で、必ずしも市内全域画一的に進めるのではなく、地域の実情に応じたシステムを構築できるような支援をお願いしたい。

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
10	有害鳥獣被害対策事業の電気柵設置の補助制度では用具の購入から設置までの1セットが対象となっているため、経費が非常に高くなる。用具だけを補助の対象にしてほしい。	1か月位前に藤野地域等で断水があったが、何の情報も放送されなかった。断水になると、事務所や学校のほか、一般家庭でも非常に困ると思うので、復旧の見込み等について、防災行政無線や地域放送を活用して情報提供をしてほしい。		「平成18年度協議経過報告書(松元地域)」に記載してある「地域配分を考えた施策の推進」については、合併後、地域間の格差が大きくなっている感もあるので、さらに強調した内容にしてほしい。	現在、旧鹿兒島市域内の各地域で行われる体育祭は、市の補助金なしで実施されていることから、今後このまま継続して補助金が得られるか不透明な面が大きい。このことから、将来的にイベントを継続していくためには、地域の自治会等が中心にならざるを得ないと思われる。そのため今後は、旧鹿兒島市域内で行われている運動会などに、例えば郡山地域で代表チームを編成し参加するなど、相互交流を進めるなかで、様々な実施方法等の体験や情報収集をしていく必要がある。
11	狩猟期間が1か月間延びて大変ありがたいが、猟友会の方々がその期間外に駆除にあたっているようだが、実際に狩猟に来られる姿はあまり見かけない。	船舶部の駐車場が有料化され、入口には機械式のゲートが設置されたが、満車時は、県道に順番待ちの車が並び一般車の通行に支障を来しているの、そのような時は、駐車場の中で待機させるなど、何らかの対策を講じてほしい。			郡山地域には、多くの史跡等があるが、子ども達がそれを目にする機会がなく、自分たちが住む地域の歴史を知らないのが現状である。教育活動の一環として、自分達の地域を知る機会をつくる必要があるのではないかと。
12	休猟区が設けられ、イノシシなどが休猟区へ逃げるとどうしようもないという話を聞くが、有害鳥獣の種によっては休猟区であっても獲っていいというようなことは定められないのか。	報告書のとりまとめにあたっての基本的な考え方やスケジュール等について説明を行い、承認を得た。 ①平成17年1月から19年10月までの全3ヶ年分のまとめを行う。 ②報告書の構成は、協議経過等、テーマ等による意見・提言等、総括の3つ柱を基本とする。 ③意見集約にあたっては、これまでの協議経過をベースに類似又は重複する意見等を要約して、整理を行い、また、17年度末と18年度末の協議経過報告書等も踏まえたなかで、将来の桜島地域のまちづくりを見据えた意見・提言等のとりまとめを行う。 ④次回会議においてまとめの検討・協議を行い、最終的に完成したものを、11月下旬頃、市長に提出する。			18年度に郡山地域自治会連合会の行事として、郡山地域女性団体との意見交換会があり、相互の活動状況や課題等を知る機会になった。今後、地域内の各種団体間で定期的に連絡調整会議のようなものを設け、連携を図りながら、地域コミュニティの活性化につなげていくことが必要である。

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
13	遊休農地解消等対策事業について、先日吉田地域の耕作放棄地の調査を行い、東京に住む所有者に連絡して農地流動化の対象にあげてよいか確認したところ、了承を得た。今後、こういう調査状況等を農業委員会便りなどで周知をしてほしい。				自治会・町内会は、自主的且つ主体的な活動がさらに求められている。一方で、自治会・町内会は地域づくりの中心的な役割を果たすとともに、行政との関係も深いことから、今後、自治会・町内会と行政との連携を図る何らかの方策を確立し、相互に役割を分担、連携しながら共にまちづくりに取り組む、いわゆる行政と市民との協働を進めていく必要があると考える。このことに関して市としての基本的な考え方やその具体策について示していただきたい。
14	鹿児島市農業委員会では市、県、国へ降灰地域防災営農対策事業と有害鳥獣被害対策事業について毎年提言を行っている。自然災害に強い農業でないと後継者は生まれないと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。				現在、郡山をはじめ市内には、地域活動に取り組む様々なNPO法人、ボランティア団体等があるが、これらの団体がいつでも自由に使える、交流できるような拠点施設の整備が望まれている。また当面は、これらの団体が、既存の公共施設を柔軟に使用できるような運用ができないものか、既存の公共施設の利用実態や地域ニーズ調査分析を行い、公共施設の有効活用について総合的な検討をお願いしたい。
15	環境保全型農業推進事業については、エコファーマーと思ってよいか。エコファーマーについても今後も続けていきたいので、よろしくお願ひしたい。				馬場市を充実する具体策のひとつとして、地元の青空市グループ等との連携を考えるべきではないか。
16	農林水産物産地消推進事業として、昨年8月下旬に山形屋で吉田産の野菜のキャンペーンを行い好評を得た。今後も実施されると思うが、協力できるところは協力していきたい。				19年4月から施行されたごみ分別については、情報提供や指導を徹底するとともに、今後、現行の分別をさらに細分化して資源リサイクルを強化すべきである。具体的には、市内の特定の地域をモデル指定しての試行や、地域商店等の協力のもとでのレジ袋を使わない取組み、また現在建設中の環境未来館の活用を図るなど、その普及に努めていただきたい。

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

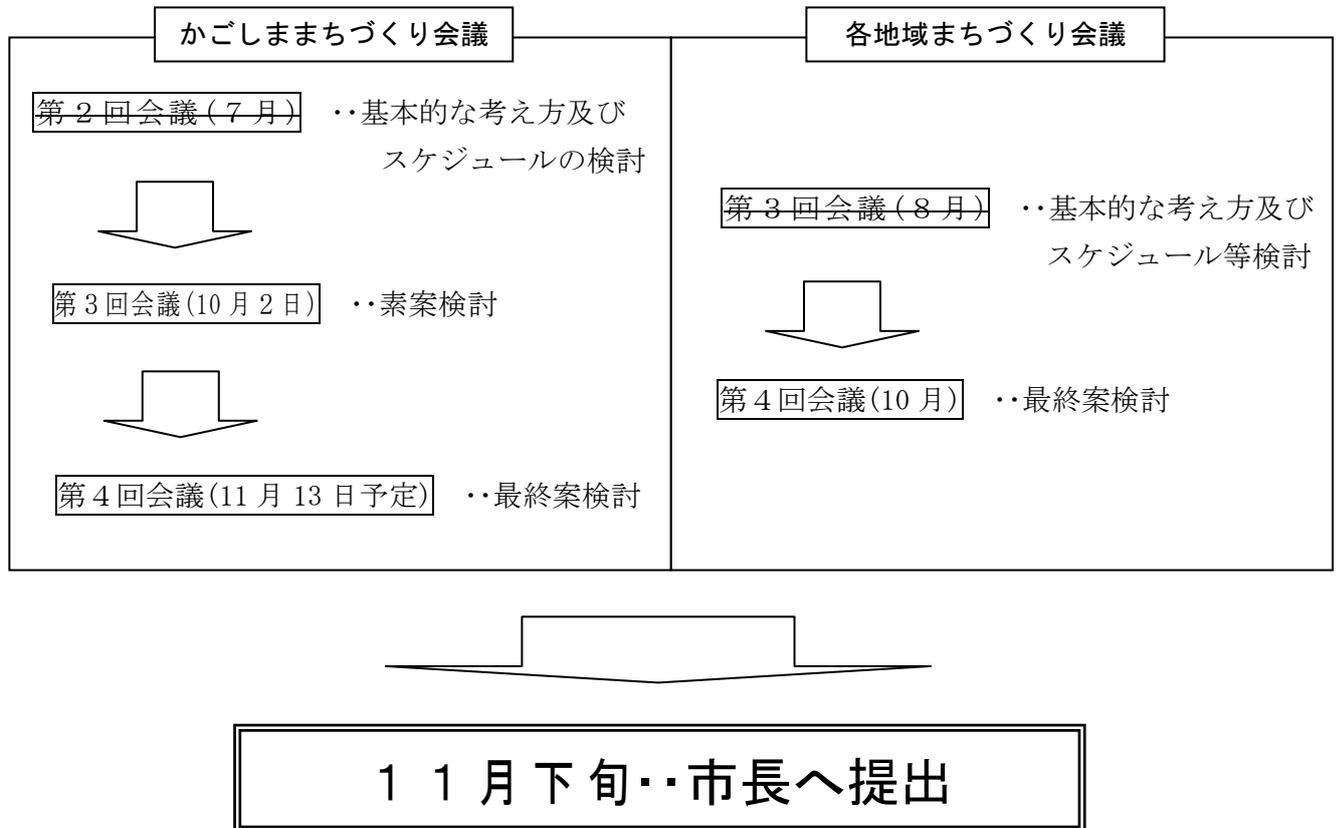
区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
17	<p>9月に食の安全交流会を実施する。鹿児島市内の天文館で地産地消を推進している店のオーナーなどを呼び、吉田産の野菜の紹介や現地を見てもらう計画だが、できれば吉田地域の飲食店の方々にも交流会を勧めてほしい。</p>				<p>薩摩の歴史・文化を色濃く残す花尾神社周辺環境を生かし、これらの歴史・文化を後世に伝える施設の整備や花尾古道の標柱等を整備するなど、花尾神社周辺プロジェクトの具体化に取り組んでいただきたい。また、毎年秋に開催されている「花尾神社秋の大祭」や、旧鶴丸城跡から花尾神社まで歩く「蟻の花尾詣で」などの際にも利用できるような、花尾古道沿いの歴史・文化を紹介するパンフレットを作成するなど、市の観光として生かしていただきたい。</p>
18	<p>鹿児島市農林水産まつりに吉田農産加工グループも春、秋の年に2回参加させてもらっているが、野菜振興会も年に1回ではなく、できれば年2回参加してもらってはどうか。</p>				<p>郡山地域においては、従来、各地域の河川愛護作業や道路（県道、市道、農道等）愛護作業が自治会活動の一環として行われ、同作業が、地域の身近な公共空間を大切にする心の醸成や地域住民の親睦交流や連帯感を図るなどの役割を果たしてきた。しかし、合併後は行政からの支援がなくなったことなどから、長年続いたこれらの作業をとりやめる自治会が、本地域に限らず他の地域でも少なからずあるのではないかと懸念されている。</p> <p>そこで、これらの地域ボランティア活動を行っている自治会・町内会等に対し、全市域を対象に、同活動への行政の支援策を設け、これらの取り組みを全市的に広めていただくような措置を講じるなどの行政と市民（地域）との協働が図れないかと懸念されている。</p> <p>例えば、</p> <p>①現在、本市の制度としてある市道沿いの花壇の管理や公園の清掃などに対する奨励制度のようなものはできないか。</p> <p>②予め作業する団体・期日を登録し、作業する日がある程度統一して、作業後の草やごみを市の委託業者で回収するなどできないか。また、これらの回収措置を市の衛生組織連合会事業の中で実施することはできないか。</p>

平成19年度第3回地域まちづくり会議概要

区 分	吉田地域まちづくり会議	桜島地域まちづくり会議	喜入地域まちづくり会議	松元地域まちづくり会議	郡山地域まちづくり会議
19	消費者の食の安全のために尽力いただいている農家の方々の健康管理、健康対策の事業は行われていないのか。				とりまとめにあたっての基本的な考え方について、協議確認。 ・まとめの範囲（期間） （平成17年1月～19年10月までの3ヶ年分） ・報告書の構成 （協議経過等、テーマ等による意見提言等、総括） ・意見集約の方法 （これまでの協議経過をベースに要約整理） ・スケジュール 第4回会議で検討協議（事前に素案を提示）、11月下旬に市長へ報告
20	防災行政無線は、災害情報や町内会活動の連絡など住民の利便に供されているが、より有効に利用するため、学校関係や台風時の緊急放送を校区全体で一斉に放送できるようにしてほしい。				
21	とりまとめについて、委員に対して説明し、とりまとめにあたっての基本的な考え方及びスケジュールについて承認を得た。 ①今回のまとめは、17年1月から19年10月までの3か年分の会議の集大成とする。 ②報告書の構成は、協議経過等、テーマ等による意見・提言等、総括の3つの柱を基本とする。 ③意見集約にあたっては、これまでの協議経過をベースに類似又は重複する意見等を要約し、整理を行うとともに、17年度末・18年度末の協議経過報告書等をふまえ、とりまとめを行う。 ④第4回地域まちづくり会議で、まとめの検討・協議を行い、地域会議を終了することとし、11月下旬頃に市長へ提出する。				

3カ年のとりまとめについて

1. スケジュール



2. 最終報告書の構成（報告書案については資料3のとおり）

(1) 協議経過等

(2) テーマ等による意見提言等

<観光・コンベンション>

<農林水産業>

<商工業>

<交通ネットワーク>

<福祉>

<教育>

<コミュニティ>

<次世代育成>

※今回提示

<環境>

※今回提示

<安心安全>

※次回提示

<社会基盤整備>

※17年度協議をもとに構成

<施策推進体制構築>

※17年度協議をもとに構成

(3) 総括

〈かごしままちづくり会議〉（報告書案）

かごしままちづくり会議では、5つの地域まちづくり会議の協議状況等も踏まえる中で協議を重ねてきており、平成18年度から平成19年度にかけては、具体的に、「観光・コンベンション」、「農林水産業」、「商工業」、「交通ネットワーク」、「福祉」、「教育」、「コミュニティ」、「次世代育成」、「環境」、「安心安全」をテーマに掲げ協議を行った。

〈観光・コンベンション〉

- ◇ **特色を盛り込んだ観光メニューの作成と情報提供** ※H18まとめ
身近すぎてその良さに気づいていなかった本市の自然、歴史、文化、景観等、地域固有の資源の発掘・活用に努め、グリーン・ツーリズムも含めた多種多様な観光メニューとしてコーディネートし、情報発信していただきたい。
- ◇ **人材の活用・育成** ※H18まとめ
多彩な観光資源を十分に活かすため、本市の自然・歴史・文化などを紹介する観光ボランティアや語り部の活用、多様な観光ニーズに応じた魅力ある観光メニューを企画・コーディネートする人材の育成を推進していただきたい。
- ◇ **城山の整備** ※H18まとめ
鹿児島島の主要な観光資源であり歴史・文化及び自然が盛り込まれた城山及び城山周辺について、桜島の眺望と一体となった、これまで以上にあたたかみを感じる観光ゾーンとして整備を進めていただきたい。
- ◇ **グリーン・ツーリズムの受け入れ環境・体制整備** ※H18まとめ
グリーン・ツーリズムを推進し、地域資源や地域の魅力を都市部住民に体験してもらうにあたって、受け入れ側となる住民へのノウハウの研修などの支援等、受け入れ体制の確立に努めていただきたい。
- ◇ **多彩な地域資源の活用による観光振興** ※H17まとめ
一体的な整備が可能となった桜島や生見海水浴場、八重の棚田など合併により引き継いだ豊かな自然、歴史、文化などを新たな観光資源として活用し観光振興を図るとともに、地域の活性化や地域間交流にも役立てていただきたい。

＜農林水産業＞

- ◇ **遊休農地の活用、団塊世代等への情報発信** ※H18まとめ
本市で農業をしたいと考えているU・Iターン希望者や、団塊世代の退職者等へ向けて、休耕地等に関する情報発信を推進していただきたい。

- ◇ **営農のシステム化** ※H18まとめ
認定農業者や集落営農により農業をしたいという意欲のある人は多い一方で、高齢者だけの農家や後継者がいない農家を取り残され、耕作放棄地が増加している現状に鑑み、営農のシステム化を図り、隙間の農家を支援していただきたい。

- ◇ **情報の発信と連携** ※H18まとめ
戦略的な農業を進めるために、本市が推進しているグリーン・ツーリズム施策との連携を図り、地産地消を推進するなど、地域内外の関係機関・団体との連携を図り、魅力あるメニューの発信に努めていただきたい。

- ◇ **特色ある農業の振興** ※H17まとめ
合併により各地域の特色ある農業が新たな資源として加わったことから、農業を本市の重要かつ総合的な産業ととらえ、さらなる振興を図るための新たな戦略・戦術を構築し推進していただきたい。

＜商工業＞

- ◇ **高齢者の就業機会増進** ※H18まとめ
若者だけでなく、高齢者の中にも起業意欲を持つ人は多いことから、高齢者向けの起業家育成、ニュービジネスの創出への支援など、間口を作る・広げるといった観点からの起業創出に力を入れていただきたい。

- ◇ **地域産品のブランド化推進** ※H18まとめ
都市間競争が進む中で、地域産品のブランド化が重要視されている。地域産品の付加価値を高め、県内外に広く認知されることが、実感として住民の新市の一体感の醸成につながることから、新生鹿児島市の特産品、農産品等のブランド化を推進し、全国に発信するなど販路拡大を図るための戦術を構築していただきたい。

＜交通ネットワーク＞

- ◇ **ニーズに合わせたコミュニティバス運用システム** ※H18まとめ
コミュニティバスの運行に当たっては、地域間交流を推進する観点から旧町域内だけを対象とした路線だけではなく、旧町と旧鹿児島市域、旧町と旧町を結ぶなど幅広い視点からの路線の検討や、定時運行では利用者の少ない路線における非定時運行など、利用者のニーズに合わせた臨機応変なシステムを構築していただきたい。

- ◇ **公共交通等に関するアンケート** ※H18まとめ
公共交通等に関するアンケート調査にあたっては、地域高齢者の意見等も十分反映されるよう利用区間やニーズの把握など、きめ細やかな調査を行っていただきたい。

＜福 祉＞

- ◇ **既存施設の有効活用** ※H18まとめ
高齢者福祉センターなどについては、利用対象年齢が限られている状況に鑑み、既存施設の有効活用を図る観点から、より多くの市民が利用できるような方途について検討していただきたい。

- ◇ **電動車椅子への補助制度** ※H18まとめ
山間部をはじめとしてかなりの勾配を伴う地域に居住する高齢者に配慮して、高齢者が社会参加しやすい環境づくり、日常生活の自立支援という観点から購入費が高額な電動車椅子に対する補助制度について検討していただきたい。

＜教 育＞

- ◇ **小規模校対策** ※H18まとめ
小学校は地域のコミュニティの中心として重要な役割を担っているものであり、児童数の減少により廃校の可能性のある小規模校は維持、存続させるための対策を講じていただきたい。

- ◇ **福祉教育の充実** ※H18まとめ
子どもたちに助け合いや奉仕の精神を伝えていくなど、福祉は地域で支えあい生み出していくものだという意識改革を行い、地域住民との助け合いを重視した福祉教育に力を入れるなどしてコミュニティを形成する体制を整備していただきたい。

◇ **校区公民館の機能向上** ※H18まとめ

校区公民館の持つ立地的な好条件を生かして、生涯学習の拠点としての機能に加え、あいご会や町内会、福祉関係等の機能を集約させたトータル的な施設としての整備を検討していただきたい。

◇ **独自色のある教育** ※H18まとめ

福祉に対する意識や郷土への愛着心を涵養するため、小学生の頃から福祉や郷土に関する学習機会を教育内容に盛り込むなど、鹿児島らしい独自色のある教育を行っていただきたい。

◇ **学校内の余裕教室等の活用** ※H18まとめ

児童生徒数の減少に伴い、活用されていない教室や土地等について、その学校や地域にまつわる遺産・偉人に関する資料を公開する場所等として利用し、学校は子どもだけのものではなく、大人も学べる場であるという意識を高め、生涯学習に繋げていただきたい。

◇ **地域運動会の開催継続** ※H18まとめ

旧5町で合併後も継続して開催されている地域運動会については、健康づくりだけでなく、地域の活力を維持する面での意義も大きいことから、今後においても継続して開催できるよう支援していただきたい。

<コミュニティ>

◇ **住民が主体となって考えるまちづくり組織** ※H18まとめ

地域の住民が主体となってそれぞれの地域の課題解決へ向かって考えあう機会づくりが必要である。旧5町におかれている地域まちづくり会議のような組織を、旧鹿児島市域内においても、地域公民館単位等で設置していただきたい。

◇ **町内会等への未加入者対策** ※H18まとめ

町内会等への未加入者が増加し、役員の後継者が不足している状況に鑑み、行政としての限界はあろうかと思うが、町内会等をパートナーとして位置づけ、連携を図ることは行政として重要なことであることから、加入率を引き上げるための方策などによる地域コミュニティの育成に努めていただきたい。

また、町内会等未加入者に対しては、インターネット等も活用し、コミュニティに対する周知・啓発を行うなど、多様な情報提供による加入促進策についても検討していただきたい。

◇ **コミュニティの再生** ※H18まとめ

地域のコミュニティが希薄になりつつあるが、災害時の対応等、町内会をはじめとする地域のつながりが果たす役割は大きいため、地域住民は自分たちの責任で助け合いを進め、市はボランティアやNPO等との連携により地域コミュニティを活性化させ、地域力の再生を図るよう支援をしていただきたい。

◇ **コミュニティ施策の推進** ※H17まとめ

合併に伴いこれまで培ってきた各コミュニティの独自性が失われることがないように取り組むとともに、町内会等への加入促進については、さらに努力していただきたい。

また、コミュニティの活性化のために、自分たちのコミュニティをどのようにしていくかアイデアを募集し、予算措置を行うなど、NPO等の市民活動の支援も積極的に行い、コミュニティの活性化が図られるよう取り組んでいただきたい。

<次世代育成> ※H19協議テーマ

◇ **子育てに関する相談が気軽にできる環境づくり**

子育てに悩み、本当に助けを求めている人こそ、声を上げてくれないと思う。そんなせっぱつまった方や、ふらっと一人で行く場合など、あらゆる方を対象とし、子育てに関して気軽に相談できる環境づくりを推進していただきたい。

◇ **仕事と子育ての両立の支援**

共働き世帯の増加等に伴う仕事と子育ての両立の負担感を軽減させ、安心して子どもを産み育てることができるよう、休職世帯への保育所優先入所等の配慮や、様々な保育サービスの充実などに努めていただきたい。

◇ **地域における子育ての支援・振興**

身近な地域で安心して子育てを行えるよう、余裕を持った学童保育を行っていただきたい。また、地域の方々が主体的に子育てに参加できるよう、ふれあい子育てサロンなど、地域における子育て活動の啓発・振興を図っていただきたい。

◇ 子どもの健康サポート

子どもが健やかに成長できることは親の願いであり、病気の際の相談など、子どもの健康な育成のためのサポートを充実させていただきたい。

◇ ひとり親家庭の自立支援

ひとり親家庭における様々な悩み事や相談事への対応の一環として、悩んでいる方のネットワークづくりへの支援等を今後とも行うなど、自立に向けた施策を推進していただきたい。

＜環境＞ ※H19協議テーマ

◇ 分別する意識とゴミを出さない方向づくり

ゴミ処理においては分別の意識を徹底させるとともに、マイバッグ・マイ箸の取組みのようにゴミを出さないという方向に向けていくため、市民に対する啓発活動を積極的に行っていただきたい。

◇ 市民と一体となったゴミ問題の解決

ゴミ処理のあり方については、市民と一体となってより良い方法を検証していただきたい。また、市民がゴミ問題を共通認識として感じあえるものにしていただきたい。そのためには、農村地域にある堆肥化の仕組みといった地域のすばらしい事例をたくさん紹介したり、市民同士の発表・検証の場として、環境未来館を十分に活用してほしい。

◇ 緑地の利活用

合併によりますます豊かになった自然、広大になった緑地。これらすばらしい環境と様々な場でふれあいを深められるよう情報発信に努めてほしい。また、街中においても、緑豊かで花にあふれるネットワークの形成を図ってほしい。

◇ 市民と一緒に進める環境にやさしいまちづくり

自転車を生かしたまちづくりを進めるなど、もっと市民が環境に関する活動に参加できることがあると思うので、環境問題に関わり、環境活動に参加できるようわかりやすく市民に紹介してほしい。

◇ 環境に配慮した施策の推進

鹿兒島市は様々な施策を展開する事業者として、実施事業に対する環境活動評価を今後とも継続するなど、環境に配慮した施策の推進を図っていただ

〔総括〕

平成17年1月から、平成19年までの約3カ年にわたり、新生鹿児島市の速やかな一体化と均衡ある発展を図るため、協議を重ねてきたところである。

平成17年度には、自由闊達に意見を述べ、幅広い議論を重ね、平成18年度から平成19年度の会議においては、テーマ協議に際して、テーマに関する各課の資料説明、助言等をいただきながら議論を進め、出された意見や提言の施策への反映を検討していただいたところである。

今後とも、これらの提言を参考に、合併効果を最大限に生かしたまちづくりを進め、新生鹿児島市が市民にも本市を訪れる人にも魅力あるまちとなるよう取り組んでいただきたい。